



通所支援事業の ひとコマ

時々寒い日もありますが、日増しに春らしくなってきましたね。時期は遡りますが、1月末に訪れた「10年に1度」の寒波の影響で、三重病院周辺も大雪に見舞われました。スタッフはなんとか時間通り出勤したものの、ご利用者さんは慣れない雪道での送迎を考慮してお休みされました。そこで、保育士と二人で通路や駐車場の雪かきをしながら、翌日からの療育活動の準備として雪だるまつくりをしました。しっかり固めたおかげで、節分がすぎてもまだしっかり形が残っていましたよ。もちろん翌日からは、たらいに雪を盛って室内に持ち込み、雪遊びを存分に楽しみまし



た。
今回の大雪では、高速道路での長時間の立ち往生やそれに伴う物流の遅延、水道管の破裂・断水などが問題となりました。近々起こるであろう南海トラフ地震は、30年以内の発生確率が「70%程度」から「70%から80%」に引き上げられているのはご存知でしょうか。地震被害といえば津波や建物倒壊が話題になりますが、停電や断水も医療的ケアが必要な障害児・者にとっては命取りです。「備えあれば憂いなし」そんな言葉を思い出させてくれた大雪でした。(療育指導室長 村松 順子)

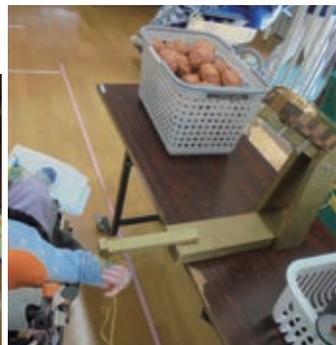
5病棟の生活のひとコマ 76

今年の冬は一段と冷え込み、三重県内でも雪が降るなど非常に厳しい寒さが続きましたね。少しずつではありますが寒さも落ち着いてきており、春の訪れを感じています。



さて5病棟では、節分の日に豆まきを行いました。迫力ある大きな鬼を前に怯えた表情を浮かべたり、鬼に動じずニコニコ笑ったりなど、さまざまな患者さんの表情が見られました。手作りの豆まきマシーンを使って「鬼は外! 福は内!」と大きな声で願いを込めながら豆まきをする患者さんの姿がとても印象的でした。その後、恵方巻きと金棒を持って鬼のパネルとともに記念撮影をし、皆さんキラキラな笑顔をかメラに向けてくださいました。患者さんにとってもスタッフにとっても楽しい一日となりました。

(児童指導員 森 日奈子)



やまばとギャラリー information

今月の作品は「おひなさま」です。トイレトペーパーの芯や布の切れ端を活用して作りました。表情も衣装も個性豊かでどの作品もとても可愛らしく、見ているだけでなんだか温かい気持ちになってきます。背景の台紙の模様づくりにもこだわっており、ビー玉にカラフルな絵の具をつけて、患者さんと一緒に紙の上でころころ転がして描きました。是非やまばとギャラリーへ足を運んでいただき、ひなまつり気分を味わってみてください。次回の展示作品もお楽しみに!



(児童指導員 森 日奈子)

今月の みえツうちゃん

さつそく、素敵な塗り絵を応募頂きました。ありがとうございます。院内展示やニュースレターに掲載しますので、病棟や外来にある用紙に描いた作品を医療福祉相談室に、ご持参ください。どしどし、応募待っています。